

三浦環(1884~1946)生誕140年記念

三浦環の シューベルト 冬の旅

新発見の訳詞・録音史料に基づく
再現演奏と語りでおくる
プリマ・ドンナの人生と芸術



小林 沙羅
/ ソプラノ /



河野 紘子
/ ピアノ /



吉田 孝
/ 語り /



大石 みちこ
/ 脚本 /



早坂 牧子
/ 企画 /

本邦初の国際的オペラ歌手、三浦環が生涯最後に自らの訳詞で歌った
シューベルト《冬の旅》全24曲。
生誕140年の今年、縁の旧東京音楽学校奏楽堂に蘇る一

2024 **11/29** 金 17:30開場 18:30開演 (20:00終演予定 / 休憩なし)
旧東京音楽学校奏楽堂 (上野公園内)

Ticket 一般：前売 2,500円 当日 3,000円 学生：1,000円 ※未就学児入場不可
※学生券の方は当日学生証提示のこと

チケットお申し込み
イープラス ▶ <https://eplus.jp/>
チケットぴあ ▶ <https://t.pia.jp/> (Pコード:276743)
Confetti ▶ <https://www.confetti-web.com/events/>
(カンフェティ)

科研費
KAKENHI

Rohm Music
Foundation
ロームミュージックファンデーション

お問い合わせ



台東区芸術文化支援制度

- ◆主催：三浦環のシューベルト《冬の旅》制作実行委員会
- ◆助成：日本音楽学会音楽関連学術イベント助成金
公益財団法人ロームミュージックファンデーション
台東区芸術文化支援制度
日本学術振興会科学研究費助成事業
- ◆後援：東京藝術大学音楽学部同声会
- ◆制作協力：岩神六平事務所

◆特設サイト：<https://miuratamaki-winterreise.com> ▶▶

Email: miura.tamaki2024@gmail.com (早坂) / Tel: 046-876-0712 (岩神六平事務所)

ACCESS

JR「上野駅」公園口
から徒歩約10分
東京メトロ銀座線
日比谷線「上野駅」
から徒歩約15分
京成「上野駅」
から徒歩約15分



1946年4月5日、オペラ歌手三浦環は、病軀をおして臨んだ生涯最後の録音で、フランツ・シューベルトの連作歌曲《冬の旅》全24曲を自らの訳詞で歌いました。長らく所在不明であったこの時の音源と、訳詞の掲載された1944年の演奏会プログラムが近年発見され、環が晩年に歌った《冬の旅》の全体像が没後初めて明らかとなりました。オペラ歌手らしい劇的な表現と、和語を多用した現代の耳にも分かりやすい訳詞は、当時の演奏実践を伝える貴重な史料であるだけでなく、日本ならではの《冬の旅》の演奏形態として、今なお新鮮な魅力を放っています。

本公演は、残された録音とプログラムに基づいて環の歌った《冬の旅》の演奏を再現すると共に、今を生きる我々が彼女との対話を通して新たな《冬の旅》を創造する試みです。演奏に、オペラ・歌曲共に定評のあるソプラノ歌手、小林沙羅と、多くの歌手から満幅の信頼を集める伴奏の名手、河野紘子。曲間には、脚本家の大石みちこ書き下ろしの台本による環の夫・政太郎の語り(吉田孝)が加わり、環の人生を辿る旅としてシューベルト《冬の旅》を再構成します。

ジャコモ・プッチーニのオペラ《蝶々夫人》で名声を得た三浦環が、人生の終わりに自らの訳詞で歌うことを選んだシューベルトの《冬の旅》——生誕140年を記念し、彼女がかつて日本初のオペラ公演《オルフォイス》でデビューを果たした旧東京音楽学校奏楽堂の舞台上、三浦環最後の芸術と人生を振り返ります。

公演日の2024年11月29日(金)は、奇しくもプッチーニ100回目の命日。偉大なオペラ作曲家プッチーニと、彼の賛辞を受けた日本人初の「蝶々さん」の功績に思いを馳せながら、三浦環による《冬の旅》の世界をお楽しみください。



小林 沙羅 / ソプラノ /

Sara KOBAYASHI

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。2010年度野村財団奨学生、2011年度文化庁新進芸術家在外研修員。2014年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2010年から2015年にはウィーンとローマにて研修と演奏活動を行う。2012年ブルガリア国立歌劇場で欧州デビュー。『夕鶴』『紅天女』『フィガロの結婚』他多くのオペラで主演を務める。2019年ロンドンのウイグモアホールにてソノリサイトを開催。NHK「ニューイヤーオペラコンサート」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、テレビ東京「ジルバスターコンサート」等メディアにも多数出演。日本コロムビアよりCDアルバム「花のしらべ」、「この世でいちばん優しい歌」、「日本の詩(うた)」をリリース。第27回出光音楽賞、第20回ホテルオークラ賞受賞。日本声楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。大阪芸術大学准教授。

河野 紘子 / ピアノ /

Hiroko KOHNO

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を経て同大学研究科を修了。これまでに桐朋学園大学声楽科嘱託演奏員、二期会研修所ピアノニストとして勤務。アンサンブルに定評があり、「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」「東京・春・音楽祭」などの音楽祭に出演。ソプラノ歌手小林沙羅氏のアルバムや数々の合唱団との収録など、CD録音にも多数参加。歌曲とピアノソロを交えたセルフ・プロデュースコンサート「詩が音をまとう時」や、ジャンルを超えたクリエイターたちと共に映像作品を製作するなど、企画力も高く評価されている。またドラマ・映画「のだめカンタービレ」の主人公(上野樹里)の手・音の吹き替え、現場での指導を担当するなど多方面で活動の幅を広げている。



吉田 孝 / 語り /

Takashi YOSHIDA

ワールドカップバレー'95場内アナウンスでデビュー、ダビスタ実況アナとして東京ゲームショウなどに出演。その後、代表作となるCX『スーパーニュース』のナレーターを14年間務める。現在「今日もあなたが一番まいになる」KIRIN『本麒麟』を筆頭に、数多くのCMナレーションを担当。声優としても映画『タイタニック』を始めとする洋画吹き替え作品、アニメ『ダイヤのA』、『おそ松さん』、朝ドラ『ちむどん』などに出演している。コンサートMCや朗読と云ったステージ活動にも精力的で、これまで多くのプロオーケストラやアンサンブル団体と共演し、何れも好評を博す。フジテレビ「アナトレ」、芸劇オーケストラアカデミー他、各種ワークショップで後進の指導にも当たっている。

大石 みちこ / 脚本 /

Michiko OISHI

東京藝術大学美術学部卒業。会社勤務を経て2005年、東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻脚本領域入学、2007年同修了。主な脚本執筆作品に映画『東南角部屋二階の女』(池田千尋監督)、映画『ゲゲゲの女房』(鈴木卓爾監督)、映画『ドライブイン蒲生』(たむらまさき監督)、アニメーション『ヒバクシャからの手紙—貴女へ—』(いまばやしゆか監督)、NHKスペシャル『星影のワルツ』、NHK・FMシアター『口ずさんでシャンソン』等がある。映画『ライク・サムワン・イン・ラブ』(アッパス・キアロスタミ監督)では日本語台詞監修をつとめた。2022年、ノンフィクション『奇跡のプリマ・ドンナ〜三浦環の声を求めて〜』KADOKAWA刊を出版。2023年4月より東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻教授。



早坂 牧子 / 企画 /

Makiko HAYASAKA

国際基督教大学、東京藝術大学大学院を経て、ブリストル大学大学院博士課程修了(PhD, Musicology)。現在、日本学術振興会科学研究費助成事業「三浦環の歌：録音と演奏分析による20世紀初期日本人声楽家の歌唱スタイル考察」に取り組むほか、英国のオルガン音楽、19〜20世紀英米大衆文化、日本歌曲における詩と音楽、ミュージカルと宝塚歌劇における音楽劇作法、音大生のための英語教育などのテーマで研究・実践・教育活動を展開している。詩と音楽のコラボレーション集団 VOICE SPACE メンバー。東京音楽大学ミュージック・リベラルアーツ専攻准教授。山中湖村芸術文化アドバイザー。

三浦 環 / ソプラノ：1884～1946 /

Tamaki MIURA

旧東京音楽学校で声楽を学び、1903(明治36)年、同校奏楽堂で催された日本初のオペラ公演グレルク作《オルフォイス》百合姫役でデビュー。帝国劇場などの舞台や、レコードの吹込で活躍した後、1914(大正3)年、夫・政太郎の留学に伴って渡欧。ロンドンのロイヤル・オペラ・ハウスで日本人として初めてプッチーニのオペラ《蝶々夫人》に主演し、大成功を収める。翌年渡米し、《蝶々夫人》《イリス》《浪子さん》《お菊さん》などに主演、世界各地で演奏活動を行う。《蝶々夫人》の演奏回数は2,000回を超すとも。透明感のある声質と、日本舞踊を基礎とした美しい所作が聴衆を魅了し、プッチーニには「私の理想の蝶々さん」と評された。1935(昭和10)年に帰国後、精力的な演奏活動の傍ら後進の指導にも力を入れる。1944(昭和19)年、山梨県山中湖村に母・登波と疎開。終戦直後、病軀をおして日比谷公会堂で歌った自らの訳詞によるシューベルトの《冬の旅》と《美しき水車小屋の娘》は、壮絶な絶唱であったと伝わる。1946(昭和21)年4月に《冬の旅》と《蝶々夫人》他を録音。同年5月26日に世を去るまで、日本声楽界の支柱であり続けた。

